

## 平成22年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年11月5日

上場会社名 キリンホールディングス株式会社

上場取引所 東大名札福

コード番号 2503 URL <http://www.kirinholdings.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三宅 占二

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員コーポレートコミュニケーション部長 (氏名) 小川 洋

TEL 03-5540-3455

四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年12月期第3四半期の連結業績(平成22年1月1日～平成22年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年12月期第3四半期	1,602,854	△3.9	113,675	21.0	107,437	△2.4	24,216	△41.9
21年12月期第3四半期	1,668,269	—	93,967	—	110,089	—	41,705	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
22年12月期第3四半期	25.41	—
21年12月期第3四半期	43.70	43.67

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
22年12月期第3四半期	2,652,818	1,137,529	35.0	973.75
21年12月期	2,861,194	1,198,869	34.3	1,029.35

(参考) 自己資本 22年12月期第3四半期 928,151百万円 21年12月期 981,322百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
21年12月期	—	11.50	—	11.50	23.00
22年12月期	—	12.50	—	—	—
22年12月期(予想)	—	—	—	12.50	25.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

## 3. 平成22年12月期の連結業績予想(平成22年1月1日～平成22年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	2,180,000	△4.3	133,000	3.6	125,000	△13.6	35,000	△28.8	36.72

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】5ページ「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 \_\_\_\_\_）、除外 一社（社名 \_\_\_\_\_）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	22年12月期3Q	984,508,387株	21年12月期	984,508,387株
② 期末自己株式数	22年12月期3Q	31,331,162株	21年12月期	31,167,235株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	22年12月期3Q	953,218,782株	21年12月期3Q	954,272,500株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績予想に関する記述は、当社および当グループが本資料の発表日現在で入手可能な情報から得られた判断に基づいていますが、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、当社および当グループの事業をとりまく経済情勢、市場動向、為替レートなどに関わる様々な要因により、記述されている業績予想とは大幅に異なる可能性があることをご承知おきください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	5
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	5
2. その他の情報 .....	5
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	5
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	5
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	6
(4) その他 .....	7
3. 四半期連結財務諸表 .....	8
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	8
(2) 四半期連結損益計算書 .....	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	11
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	13
(5) セグメント情報 .....	13
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	15
(7) その他注記事項 .....	15

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間(平成22年1月1日～平成22年9月30日)の世界経済は、各国の景気刺激策の効果などから緩やかに回復しています。日本経済においては、今夏の猛暑による影響などもあり、個人消費が持ち直し基調を続け、景気回復の動きも見られます。

このような状況の中、キリングroupは、キリングroup長期経営構想「キリン・グループ・ビジョン2015」(略称:KV2015)実現に向けた第2ステージである「2010年-2012年キリングroup中期経営計画」初年度において、質的拡大に向けた取り組みを着実に実行しました。

その中で、グループ企業間の連携の一環として4月から展開している「キリンの健康プロジェクト」では、グループ横断ブランド「キリンプラスアイ」第一弾商品(全8アイテム)の販売が好調で、発売後約4ヶ月で初年度の販売目標金額50億円を突破しました。

また、KV2015の達成に向け、7月にマレーシア、シンガポールで第一位の飲料事業などを有するフレイザー・アンド・ニューヴ社の株式の14.7%を取得し、国際総合飲料グループ戦略を大きく進展させる機会を得た一方で、「食と健康」領域への事業集中に向け事業ポートフォリオの見直しを進め、3月にキリンアグリバイオ(株)及びキリンアグリバイオイーシー社の全株式売却、9月に(株)ナガノトマトの食品製造販売事業を売却しました。さらに、グループ共通の間接業務サービスを提供しているキリンビジネスエキスパート(株)の改組を発表するなど、より高い効率性と市場競争力のある組織作りを進めました。

これらの結果、当第3四半期累計期間の売上高は、主にナショナルフーズ社の決算期変更により減少しましたが、コスト削減効果や協和発酵キリングroupの化学品事業の業績回復等により営業利益は増加しました。また、経常利益、四半期純利益は為替差損の影響等により減少しました。

連結売上高	1兆6,028億円	(前年同期比	3.9%減)
連結営業利益	1,136億円	(前年同期比	21.0%増)
連結経常利益	1,074億円	(前年同期比	2.4%減)
連結第3四半期純利益	242億円	(前年同期比	41.9%減)

また、メルシャン(株)については、5月に水産飼料事業部における不適切取引が判明したことを受けて、当社はメルシャン(株)の経営基盤及びコーポレートガバナンスの強化が急務と判断し、メルシャン(株)を完全子会社化する株式交換契約を締結しました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりです。

〈酒類事業部門〉

国内酒類事業では、キリンビール(株)が、商品戦略の3つの課題である「定番商品強化」「健康志向への対応強化」「総需要拡大」に引き続き取り組みました。

昨今の景気動向の影響を受けて、特に伸張している新ジャンル市場においては、「キリンのどごしく生」が、2005年4月の発売から2010年8月までの累計販売本数が80億本を突破し、カテゴリー内での圧倒的な地位を堅持しました。また、新ジャンル市場に対するお客様のニーズの多様化に応え、7月に新発売した「キリン 本格<辛口麦>」も好調で、9月末までに年間販売目標の約6割を販売しました。

また、急速に拡大しているノンアルコール・ビールテイスト飲料市場においても、昨年4月に発売した「キリンフリー」が、好調だった昨年をさらに上回る好調さで、年間販売目標を年初予定から約2割引き上げるなど、引き続き市場を牽引しました。

さらに、当社グループが掲げる2010-2012年中期経営計画「KV2015ステージII」で目指す「リーニングの実現」に向けた構造改革の一環として、キリンビール(株)の営業部門と量販店や飲食店の店頭におけるキリンビール商品のマーチャンダイジング機能を担うキリンマーチャンダイジング(株)を統合した新会社を2012年に設立し、営業基盤を一元化することで、地域密着型の営業体制を一層強化することを決定しました。グループの中核事業としてのさらなる成長に向けて、厳しい市場環境を乗り越えられる企業体質の強化と収益性の一層の向上を図り、より効率的で生産性の高い組織を目指します。

メルシャン(株)では、生活防衛意識の高まりから、主に業務用市場向けの中・高価格帯の輸入ワインが影響を受けたものの、家庭用市場向けの国産・デイリーワインが好調でした。さらに、世界的に人気が高まるロゼワインの販売強化や、リサイクル可能で環境にやさしいペットボトル入りワインの提

案など、ワイン市場の活性化に向け積極的なプロモーションを行ないました。

海外酒類事業では、ライオンネイサン ナショナルフーズ社の酒類事業が、プレミアムビールや糖質を減らした高付加価値商品などへの商品構成シフトに一層注力し、豪州ビール市場の成長がやや緩やかになる中、堅調な業績を維持しました。

厳しい競争環境が続く中国では、総合飲料グループ戦略を柱として、長江デルタ・珠江デルタ・東北三省を中心に引き続き販売強化に努めました。

これらの結果、ライオンネイサン ナショナルフーズ社の酒類事業が為替の影響を受けたことや、キリンビール㈱のコスト削減効果等により、売上高、営業利益はともに増加しました。

酒類事業部門連結売上高	8,134億円	(前年同期比	1.9%増)
酒類事業部門連結営業利益	843億円	(前年同期比	9.5%増)

#### <飲料・食品事業部門>

国内飲料・食品事業では、キリンビバレッジ㈱が引き続き「強いブランド創り」と「収益構造改革」に注力しました。

主力ブランドの中でも、特に「キリン 午後の紅茶」、「キリン ファイア」は、定番商品のリニューアルやカテゴリーの枠にとらわれない新たな提案を通じてブランド価値向上に努めました。

紅茶飲料市場No.1ブランド※である「キリン 午後の紅茶」は、2月に発売した「キリン 午後の紅茶 エスプレッソティー」が引き続き好調で年間販売目標を上方修正し、また、9月には定番3アイテム「キリン 午後の紅茶 ストレートティー」「キリン 午後の紅茶 レモンティー」「キリン 午後の紅茶 ミルクティー」をリニューアルするなど、今年に入り拡大している紅茶飲料市場を力強く牽引し、「キリン 午後の紅茶」ブランド全体の年間販売目標も上方修正しました。※ ㈱食品マーケティング研究所調べ(2009年実績)

「キリン ファイア」ブランドにおいても、ペットボトル入り「キリン ファイア SUGOUM A」の発売や8月に主力商品である「キリン ファイア プレミアムブレンド 火の恵み」「キリン ファイア ブラック」「キリン ファイア 挽きたて微糖」の新発売・リニューアルをしました。

昨年から取り組んでいる収益構造改革については、厳しい事業環境の中、着実に成果が表れてきました。

また、小岩井乳業㈱の資本構成を見直し、キリンホールディングス㈱直轄の事業会社とすることで、事業基盤を強化し、これまで以上に乳事業へ特化し、さらに小岩井ブランドの価値を高めていくことを決定しました。

キリン協和フーズ㈱では、7月1日からメルシャン㈱の加工用酒類・発酵調味料事業部門との統合により新体制となり、価値提案型の開発・営業体制を強化すると共に、収益性向上に向け競争力のある商品の提供に努めました。

海外飲料・食品事業については、キリンビバレッジ㈱が中国において発売10年目を機にリニューアルした「キリン 午後の紅茶」のマーケティング活動を強化するとともに、収益構造改革に取り組みました。また、タイにおいては、「キリン 午後の紅茶 Tea Break ホワイトグレープミント」を発売し、「キリン 午後の紅茶」ブランドの更なる活性化を図りました。

ライオンネイサン ナショナルフーズ社の飲料・食品事業は、乳飲料ならびに果汁飲料市場において、消費者の低価格志向や原材料価格が過去の水準に比べ割高な状態にあるなど厳しい環境が続く中、基盤ブランドへのさらなる集中と付加価値戦略を通じた商品ミックスの改善に努めました。また、シナジー創出へ向け、機能統合および最適化の取り組みを着実に実行しました。

これらの結果、主にナショナルフーズ社の決算期変更により売上高は減少しましたが、キリンビバレッジ㈱のコスト削減効果等により営業利益は増加しました。

飲料・食品事業部門連結売上高	4,623億円	(前年同期比	15.8%減)
飲料・食品事業部門連結営業利益	90億円	(前年同期比	1,002.0%増)

#### <医薬事業部門>

協和発酵キリン㈱では、4月に実施された薬価基準の引下げの影響を受けたものの、主力製品である貧血治療剤「ネスプ」及び「エスポー」、二次性副甲状腺亢進症治療剤「レグパラ」は好調に推移しました。

医薬品の技術収入及び輸出は、導出による一時金収入の増加に加えて、ロイヤルティ収入も好調に推移しました。

また、新薬の開発においては、9月に抗CCR4抗体KW-0761の成人T細胞白血病リンパ腫を対象とした併用療法についての後期第Ⅱ相臨床試験及び末梢性T/NK細胞リンパ腫を対象とした後期第Ⅱ相臨床試験を開始するなど、順調に進みました。

これらの結果、売上高、営業利益はともに増加しました。

医薬事業部門連結売上高	1,539億円	(前年同期比	0.9%増)
医薬事業部門連結営業利益	289億円	(前年同期比	1.8%増)

<その他の事業部門>

協和発酵キリングループのバイオケミカル事業では、輸液用アミノ酸や医薬用原料が国内、海外ともに好調に推移しました。ヘルスケア製品では、4月より当社グループが展開している“キリンの健康プロジェクト”「キリン プラス-アイ」商品の好調な販売に合わせ、機能性商品素材である「回復系アミノ酸オルニチン※」の増産体制を整えました。※協和発酵キリングループの協和発酵バイオ㈱が独自に研究開発し、製造を担う、キリングループの注力素材。オルニチンは体内で使われても自らがオルニチンに戻るので回復系アミノ酸と呼びます。

協和発酵キリングループの化学品事業では、景気の回復に伴う需要の回復や、製品価格も総じて高値で推移したことにより、前年に比べ大幅に業績が改善しました。

これらの結果、主に協和発酵キリングループの化学品事業の業績回復により、売上高、営業利益はともに増加しました。

その他の事業部門連結売上高	1,730億円	(前年同期比	2.9%増)
その他の事業部門連結営業利益	64億円	(前年同期比	286.9%増)

なお、協和発酵キリン㈱は、同社グループの化学品事業を展開する協和発酵ケミカル㈱の全株式の譲渡に関して、日本産業パートナーズ株式会社と基本的事項について合意したことを10月22日に発表しました。

また、所在地別セグメントの状況は以下のとおりです。

(日本)

酒類事業部門では、キリンビール㈱で「キリン のどごし<生>」などの主力商品の更なる強化に加え、「キリン 本格<辛口麦>」など、お客様のニーズの多様化に応える新しい商品提案にも積極的に取り組みました。飲料・食品事業部門では、キリンビバレッジ㈱が「キリン 午後の紅茶」などの主力ブランドを中心に強いブランド創りに努め、また、収益構造改革の成果も表れ始めました。医薬事業部門では、協和発酵キリン㈱で薬価基準の引下げがあった中、主力製品の販売が好調に推移し、その他の事業部門では、需要の回復を受けて化学品事業が好調に推移しました。

連結売上高	1兆2,737億円	(前年同期比	1.6%減)
連結営業利益	1,093億円	(前年同期比	29.8%増)

(アジア・オセアニア)

アジアでは、キリンビバレッジ㈱が中国などでマーケティング活動に注力するとともに、収益構造改革に取り組みました。豪州では、ライオンネイサン ナショナルフーズ社の酒類事業が堅調な業績を維持するとともに、飲料・食品事業では消費者の低価格志向など厳しい環境の中、基盤ブランドの強化とシナジー創出に向けた取り組みを進めました。

連結売上高	2,820億円	(前年同期比	12.0%減)
連結営業利益	150億円	(前年同期比	16.0%減)

(その他地域)

アメリカ合衆国、ヨーロッパ諸国など、その他の地域の業績は以下のとおりです。

連結売上高	470億円	(前年同期比	11.9%減)
連結営業利益	51億円	(前年同期比	6.6%減)

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、投資有価証券等が増加したものの、現金及び預金、受取手形及び売掛金、のれん等の減少により、前連結会計年度末に比べ2,083億円減少して2兆6,528億円となりました。

負債は、未払酒税、退職給付引当金、有利子負債の減少等により、前連結会計年度末に比べ1,470億円減少して1兆5,152億円となりました。

純資産は、為替換算調整勘定の減少等により、前連結会計年度末に比べ613億円減少して1兆1,375億円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当連結会計年度の業績見通しについては、平成22年8月16日発表の業績予想に変更はありません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

①簡便な会計処理

1) 一般債権の貸倒見積高の算定方法

貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度末において算定した貸倒実績率等の合理的な基準を使用して、一般債権の貸倒見積高を算定しております。

2) 棚卸資産の評価方法

四半期連結会計期間末における棚卸高の算出に関して、実地棚卸を省略し前連結会計年度に係る実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定しております。

棚卸資産の簿価切下げに関して収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行っております。

3) 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度末において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法により算定しております。

②特有の会計処理

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

## (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

## ①完成工事高及び完成工事原価の計上基準の変更

請負工事に係る収益の計上基準については、従来、主として、工事完成基準を適用していましたが、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号 平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日)を第1四半期連結会計期間より適用し、第1四半期連結会計期間に着手した工事契約から、当第3四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

この変更に伴う損益に与える影響は軽微であります。

## ②企業結合に関する会計基準等の適用

第2四半期連結会計期間より、「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)、「『研究開発費等に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第23号 平成20年12月26日)、「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成20年12月26日)、「持分法に関する会計基準」(企業会計基準第16号 平成20年12月26日公表分)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)を適用しております。

## (追加情報)

## (連結子会社の事業年度等に関する事項の変更)

当社は、オセアニアでの総合飲料グループ戦略をさらに推進すべく、平成21年10月にLION NATHAN LTD. (以下、LN) を完全子会社とするとともに、全てのオセアニア事業会社(National Foods Limited (以下、NFL)、LN、及びそれらの子会社)を一元的に統括するためにLion Nathan National Foods Pty Ltd (以下、LNNF) の子会社としました。また、LNNF、NFL及びその子会社の決算日(12月31日)を当連結会計年度より統一し、9月30日に変更いたしました。

当社の第3四半期連結財務諸表の作成にあたっては、決算日の差異が3ヶ月を超えないことから、LNNF、NFL及びその子会社の平成22年6月30日現在の財務諸表を使用しておりますが、平成21年10月1日から平成21年12月31日までの損益は当社の前連結会計年度の連結損益計算書に含まれていることから、当社の第3四半期連結損益計算書に含めておりません。なお、四半期連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

また、前第3四半期連結会計期間(平成21年7月1日から平成21年9月30日)におけるLNNF、NFL及びその子会社の売上高は68,957百万円、営業利益は146百万円です。セグメント情報に与える影響は、「セグメント情報」に記載しております。

## (連結子会社における不適切な取引)

当社の連結子会社であるメルシャン㈱水産飼料事業部において、過年度からサンプル品出荷の費用未計上、売上計上期の操作などの不適切な会計処理や、架空販売、架空製造、これらを組み合わせた循環取引などの不正行為が継続して行われていたことが明らかになりました。また、当該不正行為を隠蔽するため、内部統制証跡の偽装やダミー品による在庫数量偽装などが行われていたことが明らかになりました。

メルシャン㈱は同社の社内調査委員会による調査結果に基づき、過大に計上されていた売掛金、棚卸資産、売上高及び売上原価の修正等を行いました。これらの修正に関して、当社は過年度分の損失5,300百万円について特別損失の過年度損益修正損として、過年度における繰延税金資産の取崩1,169百万円について過年度法人税等調整額として計上しております。なお、当四半期連結累計期間に発生した損失については、それぞれの科目にて計上しております。

(4) その他

「追加情報」に記載しましたメルシャン㈱における損失については、当社連結財務諸表への影響額が投資者等の利害関係者の判断を誤らせない範囲であると判断されることから、過年度および当年度の損失額を一括して当四半期連結累計期間の連結損益計算書に含めております。

当該処理による当四半期連結累計期間への損失影響は、営業利益および経常利益に対して1,079百万円、税金等調整前四半期純利益に対して6,694百万円、四半期純利益に対して4,203百万円となります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	81,953	125,558
受取手形及び売掛金	333,872	423,835
商品及び製品	136,504	138,937
仕掛品	20,620	18,319
原材料及び貯蔵品	39,226	41,261
その他	69,454	93,815
貸倒引当金	△2,138	△2,278
流動資産合計	679,492	839,450
固定資産		
有形固定資産	740,491	774,274
無形固定資産		
のれん	556,815	605,210
その他	118,524	129,477
無形固定資産合計	675,340	734,688
投資その他の資産		
投資有価証券	439,529	388,677
その他	125,118	128,511
貸倒引当金	△7,153	△4,407
投資その他の資産合計	557,494	512,781
固定資産合計	1,973,326	2,021,743
資産合計	2,652,818	2,861,194

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	157,996	169,936
短期借入金	207,834	259,425
コマーシャル・ペーパー	44,998	—
1年内償還予定の社債	12,221	12,521
未払法人税等	21,142	22,806
引当金	16,119	9,954
その他	225,859	319,452
流動負債合計	686,174	794,096
固定負債		
社債	321,012	324,904
長期借入金	270,026	300,590
退職給付引当金	67,103	85,279
その他の引当金	5,758	6,131
その他	165,213	151,322
固定負債合計	829,114	868,228
負債合計	1,515,289	1,662,324
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	102,045	102,045
資本剰余金	71,595	71,582
利益剰余金	861,877	860,538
自己株式	△30,721	△30,486
株主資本合計	1,004,797	1,003,680
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	7,644	18,279
繰延ヘッジ損益	899	△1,548
土地再評価差額金	△4,713	△4,713
為替換算調整勘定	△80,476	△34,375
評価・換算差額等合計	△76,645	△22,357
新株予約権	187	196
少数株主持分	209,189	217,350
純資産合計	1,137,529	1,198,869
負債純資産合計	2,652,818	2,861,194

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位: 百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)
売上高	1,668,269	1,602,854
売上原価	1,010,982	964,832
売上総利益	657,286	638,021
販売費及び一般管理費	563,319	524,345
営業利益	93,967	113,675
営業外収益		
受取利息	1,662	1,022
受取配当金	4,733	2,221
持分法による投資利益	5,781	9,750
為替差益	16,380	—
その他	4,131	3,507
営業外収益合計	32,689	16,501
営業外費用		
支払利息	14,070	16,250
為替差損	—	3,477
その他	2,496	3,012
営業外費用合計	16,567	22,740
経常利益	110,089	107,437
特別利益		
固定資産売却益	2,151	3,689
投資有価証券売却益	23,372	7,121
関係会社株式売却益	—	122
その他	583	3,884
特別利益合計	26,107	14,817
特別損失		
固定資産除却損	3,876	3,729
固定資産売却損	1,727	411
減損損失	3,793	—
投資有価証券評価損	3,185	3,301
投資有価証券売却損	1,002	104
関係会社株式売却損	21,663	6,392
在外会社清算に伴う為替換算調整勘定取崩損	—	7,568
統合関連費用	3,270	—
たな卸資産評価損	942	—
退職給付制度改定損	—	6,987
過年度損益修正損	—	※1 5,300
事業構造改善費用	—	2,097
その他	2,211	9,974
特別損失合計	41,671	45,868
税金等調整前四半期純利益	94,525	76,385
法人税等	39,921	45,247
過年度法人税等調整額	—	※1 1,169
少数株主利益	12,898	5,752
四半期純利益	41,705	24,216

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	94,525	76,385
減価償却費	73,721	76,919
のれん償却額	16,813	25,759
受取利息及び受取配当金	△6,395	△3,243
持分法による投資損益(△は益)	△5,781	△9,750
支払利息	14,070	16,250
為替差損益(△は益)	△15,890	1,579
有価証券及び投資有価証券売却益	△23,372	△7,121
固定資産廃棄売却損	5,603	4,140
関係会社株式売却損	21,663	6,392
売上債権の増減額(△は増加)	104,365	80,096
たな卸資産の増減額(△は増加)	6,384	△6,878
仕入債務の増減額(△は減少)	△32,378	△2,012
未払酒税の増減額(△は減少)	△39,320	△36,212
未払消費税等の増減額(△は減少)	△9,060	△5,274
預り金の増減額(△は減少)	△15,680	△17,594
その他	△2,863	947
小計	186,404	200,382
利息及び配当金の受取額	10,178	10,603
利息の支払額	△15,881	△16,527
法人税等の支払額	△46,059	△27,622
営業活動によるキャッシュ・フロー	134,642	166,835
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△80,235	△84,417
有形及び無形固定資産の売却による収入	22,182	11,083
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△136,879	△86,545
有価証券及び投資有価証券の売却による収入	133,631	16,986
子会社株式の取得による支出	—	△6,315
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	4,676	703
その他	△3,599	2,800
投資活動によるキャッシュ・フロー	△60,224	△145,704

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△67,138	△14,027
コマーシャル・ペーパーの増減額 (△は減少)	39,998	44,998
長期借入れによる収入	147,907	41,594
長期借入金の返済による支出	△50,524	△103,574
社債の償還による支出	△44,099	△4,880
少数株主への子会社減資による支出	—	△2,058
デリバティブ決済による収入	—	12,585
自己株式の取得による支出	△326	△280
自己株式の売却による収入	138	58
連結子会社による自己株式の取得による支出	△4,658	—
配当金の支払額	△21,949	△22,878
少数株主への配当金の支払額	△12,336	△5,132
その他	392	△1,331
財務活動によるキャッシュ・フロー	△12,595	△54,925
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,948	△9,877
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	63,770	△43,672
現金及び現金同等物の期首残高	68,457	118,797
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	178	—
連結子会社の合併による現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	227	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	132,634	75,125

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年9月30日)

	酒類 (百万円)	飲料・食品 (百万円)	医薬 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	798,430	549,062	152,514	168,261	1,668,269	—	1,668,269
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	24,009	4,046	569	23,690	52,315	(52,315)	—
計	822,439	553,109	153,084	191,951	1,720,585	(52,315)	1,668,269
営業利益	76,988	818	28,378	1,662	107,848	(13,881)	93,967

当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)

	酒類 (百万円)	飲料・食品 (百万円)	医薬 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	813,472	462,396	153,927	173,057	1,602,854	—	1,602,854
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	20,776	4,483	167	25,194	50,621	(50,621)	—
計	834,249	466,879	154,094	198,251	1,653,476	(50,621)	1,602,854
営業利益	84,329	9,024	28,900	6,432	128,687	(15,011)	113,675

(注) 1 事業区分は、製品の種類、性質を考慮した経営管理上の区分によっております。

2 各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
酒類	ビール、発泡酒、新ジャンル、洋酒、エンジニアリング、物流他
飲料・食品	清涼飲料、食品、健康・機能性食品他
医薬	医薬品
その他	バイオケミカル、化学品他

3 連結子会社の事業年度等に関する事項の変更

当第3四半期連結累計期間

「追加情報」に記載のとおり、Lion Nathan National Foods Pty Ltd (以下、LNNF)、National Foods Limited (以下、NFL) 及びその子会社の決算日 (12月31日) を当連結会計年度より9月30日に変更いたしました。

当社の第3四半期連結財務諸表の作成にあたっては、決算日の差異が3ヶ月を超えないことから、LNNF、NFL及びその子会社の平成22年6月30日現在の財務諸表を使用しておりますが、平成21年10月1日から平成21年12月31日までの損益は当社の前連結会計年度の連結損益計算書に含まれていることから、当社の第3四半期連結損益計算書に含めておりません。

なお、前第3四半期連結会計期間 (平成21年7月1日から平成21年9月30日) において「飲料・食品事業」に含まれるLNNF、NFL及びその子会社の売上高は68,957百万円、営業利益は146百万円です。

4 連結子会社の事業区分の変更

当第3四半期連結累計期間

従来、Lion Nathan National Foods Pty Ltdは「飲料・食品事業」に含まれておりましたが、「追加情

報」に記載のとおり、「酒類事業」及び「飲料・食品事業」を含む全てのオセアニア事業会社  
(National Foods Limited、Lion Nathan LTD.、及びそれらの子会社)を一元的に統括する会社となった  
ことから、第1四半期連結会計期間より「その他事業」に事業区分を変更することといたしました。これ  
により、「その他事業」の営業利益が2,792百万円減少しております。

〔所在地別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年9月30日)

	日本 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	1,294,151	320,721	53,396	1,668,269	—	1,668,269
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	17,434	2,475	6,101	26,012	(26,012)	—
計	1,311,586	323,197	59,497	1,694,281	(26,012)	1,668,269
営業利益	84,247	17,930	5,490	107,668	(13,701)	93,967

当第3四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年9月30日)

	日本 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	1,273,749	282,077	47,027	1,602,854	—	1,602,854
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	23,851	2,833	6,484	33,168	(33,168)	—
計	1,297,601	284,910	53,511	1,636,023	(33,168)	1,602,854
営業利益	109,348	15,070	5,128	129,547	(15,871)	113,675

(注) 1 国又は地域は、地理的近接度を考慮して区分しております。

2 日本以外の区分に属する主な国又は地域

地域区分	主要な国又は地域
アジア・オセアニア	東アジア、東南アジア、オセアニア諸国
その他	アメリカ合衆国

3 連結子会社の事業年度等に関する事項の変更

当第3四半期連結累計期間

「追加情報」に記載のとおり、Lion Nathan National Foods Pty Ltd(以下、LNNF)、National Foods Limited(以下、NFL)及びその子会社の決算日(12月31日)を当連結会計年度より9月30日に変更いたしました。

当社の第3四半期連結財務諸表の作成にあたっては、決算日の差異が3ヶ月を超えないことから、LNNF、NFL及びその子会社の平成22年6月30日現在の財務諸表を使用しておりますが、平成21年10月1日から平成21年12月31日までの損益は当社の前連結会計年度の連結損益計算書に含まれていることから、当社の第3四半期連結損益計算書に含めておりません。

なお、前第3四半期連結会計期間(平成21年7月1日から平成21年9月30日)において「アジア・オセアニア」に含まれるLNNF、NFL及びその子会社の売上高は68,957百万円、営業利益は146百万円です。

〔海外売上高〕

前第3四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年9月30日)

	アジア・オセアニア	その他	計
I 海外売上高(百万円)	338,959	71,080	410,040
II 連結売上高(百万円)	—	—	1,668,269
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	20.3	4.3	24.6

当第3四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年9月30日)

	アジア・オセアニア	その他	計
I 海外売上高(百万円)	303,756	66,737	370,493
II 連結売上高(百万円)	—	—	1,602,854
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	19.0	4.1	23.1

(注) 1 国又は地域は、地理的近接度を考慮して区分しております。

2 各区分に属する主な国又は地域

地域区分	主要な国又は地域
アジア・オセアニア	東アジア、東南アジア、オセアニア諸国
その他	アメリカ合衆国

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

4 連結子会社の事業年度等に関する事項の変更

当第3四半期連結累計期間

「追加情報」に記載のとおり、Lion Nathan National Foods Pty Ltd(以下、LNNF)、National Foods Limited(以下、NFL)及びその子会社の決算日(12月31日)を当連結会計年度より9月30日に変更いたしました。

当社の第3四半期連結財務諸表の作成にあたっては、決算日の差異が3ヶ月を超えないことから、LNNF、NFL及びその子会社の平成22年6月30日現在の財務諸表を使用しておりますが、平成21年10月1日から平成21年12月31日までの損益は当社の前連結会計年度の連結損益計算書に含まれていることから、当社の第3四半期連結損益計算書に含めておりません。

なお、前第3四半期連結会計期間(平成21年7月1日から平成21年9月30日)において、LNNF、NFL及びその子会社の売上高は、「アジア・オセアニア」に68,585百万円、「その他」に203百万円含まれております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(7) その他注記情報

(四半期連結損益計算書関係)

※1 過年度損益修正損、過年度法人税等調整額

「追加情報」に記載のとおり、連結子会社であるメルシャン㈱における過年度決算訂正に伴う損失額を計上しております。

# 平成22年12月期 第3四半期決算補足説明資料

1. 損益状況
2. 売上高明細
3. 主な利益増減内容（第3四半期実績）
4. 主要費用等
5. 貸借対照表の主要増減内容

## （参考資料）

1. キリングroup連結財務指標ガイド
2. 主な連結会社別損益
3. 酒類売上明細（麒麟ビール）
4. 清涼飲料売上明細（麒麟ビバレッジgroup）
5. 主要医薬品売上高（協和発酵麒麟）

麒麟ホールディングス株式会社  
平成22年11月5日

1. 損益状況

	平成21年度				平成22年度			
	第3四半期 (実績)		通期(実績)		第3四半期 (実績)		通期(予想)	
	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%
売上高 (対前年増率)	16,682	△1.6	22,784	△1.1	16,028	△3.9	21,800	△4.3
営業利益 (対前年増率)	939	△9.5	1,284	△12.0	1,136	21.0	1,330	3.6
経常利益 (対前年増率)	1,100	26.8	1,446	40.3	1,074	△2.4	1,250	△13.6
四半期(当期)純利益(対前年増率)	417	△56.4	491	△38.7	242	△41.9	350	△28.8
EBITDA ※ (対前年増率)	1,747	△12.5	2,128	△19.6	1,950	11.6	2,520	18.4

※ EBITDA = 営業利益+持分法による投資損益+減価償却費+のれん償却額+特別損益

2. 売上高明細

	平成21年度				平成22年度			
	第3四半期 (実績)		通期(実績)		第3四半期 (実績)		通期(予想) ※1	
	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%
売上高内訳 (対前年増率)								
総売上高	16,682	△1.6	22,784	△1.1	16,028	△3.9	21,800	△4.3
酒類	7,984	△7.6	10,976	△7.1	8,134	1.9	10,955	△0.2
ビール・発泡酒・新ジャンル	6,562	△7.4	8,917	△7.1	6,597	0.5	8,870	△0.5
その他の酒類 ※2	1,199	△2.5	1,702	△1.8	1,273	6.2	1,755	3.1
その他	222	△32.5	356	△26.3	263	18.6	330	△7.4
飲料・食品	5,490	0.9	7,350	2.6	4,623	△15.8	6,500	△11.6
医薬品	1,525	28.1	2,067	20.5	1,539	0.9	2,050	△0.9
その他	1,682	△0.1	2,389	2.2	1,730	2.9	2,295	△4.0
バイオケミカル	547	36.9	794	34.4	538	△1.7	700	△12.0
化学品	392	△21.8	557	△17.0	894	128.2	1,210	117.1
その他	743	△5.1	1,037	△3.5	298	△59.9	385	△62.9

※1 平成22年度通期(予想)については8月16日公表値としております。

※2 清涼発泡飲料を含んでおります。

3. 主な利益増減内容 (第3四半期実績)

(単位: 億円)

セグメント	会社名	要因	差異	内容
酒類	キリンビール	酒類限界利益減	△27	ビール販売数量減 △35千kl △44億 発泡酒販売数量減 △47千kl △47億 新ジャンル販売数量増 17千kl 19億 RTD販売数量増 1千kl 2億 焼酎・洋酒限界利益減 △12億 品種構成による差異 他
		原材料コストダウン	30	包装資材価格安 10億、砂糖・液糖価格安 9億、 麦芽価格安 7億 他
		販売費減	21	販売促進費・広告費減 17億 他 (ビール・発泡酒・新ジャンル 11億、RTD △3億、 焼酎・洋酒 15億 他)
		その他費用減	36	退職給付費用減 18億、消耗品費減 11億、 電力料・燃料費減 6億、修繕費減 4億、 減価償却費減 3億、マネジメントフィ等増 △29億 他
	計		60	
	ライオンネイサン ナショナルフーズ ※1	営業利益増 のれん償却額 ブランド償却費	96 △106 △8	271億 → 367億 △34億 → △141億 △39億 → △47億
	計		△18	
	メルシャン		7	△13億 → △6億
	その他		24	
	計		73	H21年度第3四半期 769億 → H22年度第3四半期 843億
飲料・食品	キリンビバレッジ	数量差異	△74	販売数量減 △672万ケース
		コストダウン	15	原材料コストダウン 他
		容器構成差異等	△4	販売促進費売上控除 △11億 他
		販売費減	92	販売促進費・広告費減 77億 (販売促進費売上控除 11億 他)、運搬費減 14億
	その他費用減	0	減価償却費減 7億、雑費減 3億、 マネジメントフィ等増 △8億 他	
	計		29	
ライオンネイサン ナショナルフーズ ※2	営業利益減 のれん償却額 ブランド償却費	△1 22 △1	46億 → 44億 △58億 → △36億 △17億 → △19億	
計		19		
その他		33		
計		82	H21年度第3四半期 8億 → H22年度第3四半期 90億	
医薬	協和発酵キリン ※1		5	売上総利益増 14億 研究開発費増 △16億 その他費用減 6億
計			5	H21年度第3四半期 283億 → H22年度第3四半期 289億

セグメント	要因	差異	内容
その他	協和発酵キリン パイオケミカル	2	25億 → 28億
	協和発酵キリン 化学品	96	△60億 → 35億
	メルシャン	△17	5億 → △11億
	その他	△33	ライオンネイサン ナショナルフーズ本社費用 他
計		47	H21年度第3四半期 16億 → H22年度第3四半期 64億
消去又は全社		△11	H21年度第3四半期 △138億→H22年度第3四半期 △150億
営業利益増		197	H21年度第3四半期 939億 → H22年度第3四半期 1,136億
営業外損益	金融収支	△53	△76億 → △130億
	持分法による投資損益	39	サンミゲル 6億 サンミゲルビール 42億 (現地持分損益 81億、投資差額償却額 △29億、 ブランド償却費 △8億)
	為替差損益	△198	キリンアムジェン △18億 他 163億 → △34億
	その他	△11	
計		△223	
経常利益減		△26	H21年度第3四半期 1,100億→H22年度第3四半期 1,074億
特別損益	投資有価証券売却益	△162	
	減損損失	37	
	関係会社株式売却損	152	
	在外会社清算に伴う為替換算調整勘定取崩損	△75	
	退職給付制度改定損	△69	
	過年度損益修正損	△53	メルシャン
	その他	15	
計		△154	
法人税等及び少数株主利益	法人税等	△53	
	過年度法人税等調整額	△11	メルシャン
	少数株主利益	71	
計		6	
第3四半期純利益減		△174	H21年度第3四半期 417億 → H22年度第3四半期 242億

※1 連結財務諸表上組み替えを行っており、上記は組み替え後の金額であります。

※2 決算期変更による影響については、13ページのセグメント情報をご覧ください。

主要な在外会社損益の為替換算レート	平成21年度第3四半期実績	平成22年度第3四半期実績
ライオンネイサン ナショナルフーズ(酒類) (オーストラリアドル) (円)	67.14	81.12
ライオンネイサン ナショナルフーズ(飲料・食品) (オーストラリアドル) (円)	72.15	80.77
サンミゲルビール(フィリピンペソ) (円)	2.03	1.98

4. 主要費用等

(単位：億円)

	平成21年度		平成22年度	
	第3四半期 (実績)	通期(実績)	第3四半期 (実績)	通期(予想)
研究開発費	397	585	406	600
減価償却費 ※1	737	1,058	769	1,100
のれん償却額 ※2	168	216	257	330
金融収支	△76	△114	△130	△170
設備投資額(支払)	802	1,102	844	1,000
キャッシュ・フロー	637	515	△436	△300
営業活動	1,346	1,899	1,668	2,100
投資活動	△602	△3,216	△1,457	△1,450
財務活動	△125	1,742	△549	△950

※1 ブランド償却費を含んでおります。

※2 投資差額償却額、営業権償却費

5. 貸借対照表の主要増減内容

(単位：億円)

	平成21年度末	平成22年度 第3四半期末	増減	内容
(資産の部)				
流動資産				
受取手形及び売掛金	4,238	3,338	△899	・前年度末が休日による減少 他
その他	938	694	△243	・麒麟ホールディングスの法人税等の還付による未 収還付法人税等の減少 他
固定資産				
有形固定資産	7,742	7,404	△337	・豪州連結子会社の為替影響による減少 他
のれん	6,052	5,568	△483	・豪州連結子会社の為替影響による減少 他
無形固定資産その他	1,294	1,185	△109	・豪州連結子会社の為替影響による減少 他
投資有価証券	3,886	4,395	508	・麒麟ホールディングスの株式取得による増加 他
(負債の部)				
流動負債				
短期借入金	2,594	2,078	△515	・麒麟ホールディングスの減少 他
コマーシャル・ペーパー	—	449	449	・麒麟ホールディングスのCP発行による増加
その他	3,194	2,258	△935	・前年度末が休日による未払酒税の減少 他
固定負債				
長期借入金	3,005	2,700	△305	・短期借入金への振替による減少 他
退職給付引当金	852	671	△181	・退職給付制度改定による長期未払金への振替による 減少 他
その他	1,513	1,652	138	・退職給付制度改定による退職給付引当金から長期未 払金への振替による増加 他
(純資産の部)				
為替換算調整勘定	△343	△804	△461	・豪ドルに対する円高による減少 他

参考資料

1. キリングroup連結財務指標ガイド

		平成21年度 (実績)	平成22年度 (予想) 8/16公表値	
定量 目標	売上高(億円)	酒税抜き	19,187	18,350
	営業利益(億円)	のれん等償却前	1,577	1,750
		のれん等償却後	1,284	1,330
	営業利益率(%)	対酒税抜き・のれん等償却前	8.2	9.5
		対酒税抜き・のれん等償却後	6.7	7.3
ROE(%)	のれん等償却前	8.3	8.3	

ガイ ド ラ イ ン	セグメント別 売上高(億円)	酒類	10,976	10,955
		飲料・食品	7,350	6,500
		医薬	2,067	2,050
		その他	2,389	2,295
	セグメント別 営業利益(億円)	酒類	1,028	1,055
		飲料・食品	70	130
		医薬	343	320
		その他	38	55
		消去又は全社	△196	△230
	売上高(億円)	酒税込み	22,784	21,800
	海外比率(%)	酒税抜き売上高	27	25
	EBITDA(億円)		2,128	2,520
	のれん等償却額(億円)		330	※ 496
	EPS(円)	のれん等償却前	82	88
	D/Eレシオ		0.91	0.84
総資産回転率	酒税抜き売上高	0.70	0.65	

※ のれん等償却額： ライオンネイサン231（ブランド償却費57、投資差額償却額162、営業権償却費11）  
 キリンビバレッジ19（投資差額償却額）  
 ナショナルフーズ81（ブランド償却費28、投資差額償却額53）  
 協和発酵キリン及びキリン協和フーズ67（投資差額償却額）  
 ジェイ・ボーク・アンド・サン18（ブランド償却費4、投資差額償却額13）  
 サンミゲルビール76（ブランド償却費16、投資差額償却額59） 他

主要な在外会社損益の為替換算レート	平成21年度 (実績)	平成22年度 (予想) 8/16公表値
ライオンネイサン ナショナルフーズ(酒類) (オーストラリアドル) (円)	70.04	80.00
ライオンネイサン ナショナルフーズ(飲料・食品) (オーストラリアドル) (円)	74.57	80.00
サンミゲルビール(フィリピンペソ) (円)	1.99	2.00

2. 主な連結会社別損益

平成22年度第3四半期実績

(単位：億円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	連結純利益
キリンビール ※1	6,110	637	—	—	—
マネジメントフィ等 ※2		△97	—	—	—
差引調整後	6,110	539	—	—	—
メルシャン	522	△18	△16	△40	△20
ライオンネイサン ナショナルフーズ ※3	2,654	383	—	—	—
ブランド償却費		△66	—	—	—
のれん償却額		△177	—	—	—
差引調整後	2,654	139	—	—	—
キリンビバレッジ	2,676	76	—	—	—
マネジメントフィ等 ※2		△28	—	—	—
のれん償却額		△14	—	—	—
差引調整後	2,676	32	—	—	—
協和発酵キリン	3,044	332	340	144	73
のれん償却額消去		69	69	69	35
のれん償却額		△47	△47	△47	△47
差引調整後	3,044	355	362	166	61
サンミゲルビール(関連会社)	938	281	287	212	* 102
持分法による投資損益 *			* 102	102	102
ブランド償却費 ※4			△12	△12	△12
投資差額償却額 ※4			△44	△44	△44
差引調整後			45	45	45

※1 単社の数値であります。

※2 キリンホールディングスへのグループ経営の対価・KIRINブランドの使用対価

※3 損益の取込期間については、6ページ「追加情報」をご覧ください。

※4 科目：持分法による投資損益

3. 酒類売上明細(キリンビール)

	平成21年度				平成22年度			
	第3四半期 (実績)		通期(実績)		第3四半期 (実績)		通期(予想)※2	
売上数量(対前年増率)	千KL	%	千KL	%	千KL	%	千KL	%
ビール	584	△7.9	799	△7.9	549	△5.9	739	△7.6
発泡酒	542	△10.6	726	△10.4	495	△8.6	647	△11.0
新ジャンル	530	24.3	714	17.8	547	3.2	746	4.5
計	1,656	△0.6	2,240	△2.0	1,593	△3.8	2,132	△4.8
RTD	147	△0.5	199	△1.9	148	0.6	203	1.8
清涼発泡飲料	34	718.4	51	807.1	61	76.0	75	46.2
売上高(対前年増率)	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%
ビール	2,409	△7.4	3,298	△7.5	2,273	△5.6	3,053	△7.5
発泡酒	1,654	△10.2	2,217	△10.1	1,512	△8.6	1,972	△11.1
新ジャンル	1,392	24.6	1,874	18.1	1,436	3.2	1,958	4.4
計	5,456	△1.9	7,391	△3.0	5,222	△4.3	6,983	△5.5
RTD	400	0.6	541	△0.5	408	1.9	556	2.7
焼酎・洋酒・その他	365	16.0	522	19.7	429	17.2	566	8.4

※1 上記売上数量、売上高には輸出分を含んでおります。

※2 平成22年度通期(予想)については8月16日公表値としております。

4. 清涼飲料売上明細 (キリンビバレッジグループ)

<カテゴリー別販売実績 (連結) >

(単位: 万ケース)

清涼飲料			平成21年度 第3四半期(実績)		平成22年度 第3四半期(実績)				平成21年度 通期(実績)		平成22年度 通期(予想) ※
			販売数量	構成比	販売数量	構成比	前年増減	前年比	販売数量	構成比	販売数量
カテゴリー別	茶系飲料	日本茶	1,942	13%	1,740	13%	△202	90%	2,475	13%	2,300
		烏龍茶	238	2%	222	2%	△16	93%	342	2%	280
		紅茶	2,771	19%	3,159	23%	388	114%	3,798	20%	4,150
		計	4,951	34%	5,121	38%	170	103%	6,615	35%	6,730
	コーヒー飲料	2,703	19%	2,474	18%	△229	92%	3,692	19%	3,700	
	果実・野菜飲料	1,783	12%	1,607	12%	△176	90%	2,312	12%	1,950	
	炭酸飲料	676	5%	819	6%	143	121%	821	4%	1,000	
	水	2,654	18%	2,236	16%	△418	84%	3,364	18%	2,950	
	その他	1,140	8%	1,022	6%	△118	90%	1,502	8%	1,340	
	国内市場清涼飲料計		13,907	96%	13,279	96%	△628	95%	18,306	96%	17,670
海外市場清涼飲料計		563	4%	519	4%	△44	92%	706	4%	730	
清涼飲料計		14,470	100%	13,798	100%	△672	95%	19,012	100%	18,400	

<容器別販売実績 (連結) >

(単位: 万ケース)

清涼飲料			平成21年度 第3四半期(実績)		平成22年度 第3四半期(実績)				平成21年度 通期(実績)		平成22年度 通期(予想) ※
容器別	区分	内訳	販売数量	構成比	販売数量	構成比	前年増減	前年比	販売数量	構成比	販売数量
缶容器	缶	ボトル缶を含む	3,550	25%	3,312	24%	△238	93%	4,787	25%	4,600
PET容器	大型PET	2 L	2,645	18%	2,276	16%	△369	86%	3,368	18%	3,100
		1.5 L、1 L、 900ml、750ml	1,195	8%	1,121	8%	△74	94%	1,553	8%	1,500
		大型PET計	3,840	26%	3,397	24%	△443	88%	4,921	26%	4,600
	小型PET	500ml	3,917	27%	3,931	29%	14	100%	4,986	26%	4,900
		350ml以下	859	6%	972	7%	113	113%	1,279	7%	1,400
PET合計		4,776	33%	4,903	36%	127	103%	6,265	33%	6,300	
PET合計		8,616	59%	8,300	60%	△316	96%	11,186	59%	10,900	
その他容器	ワンウェイ・リターナブル壺、 紙、ギフト 他		1,741	12%	1,667	12%	△74	96%	2,333	12%	2,170
海外市場清涼飲料計		563	4%	519	4%	△44	92%	706	4%	730	
清涼飲料計		14,470	100%	13,798	100%	△672	95%	19,012	100%	18,400	

※ 平成22年度通期(予想)については8月16日公表値としております。

5. 主要医薬品売上高(協和発酵キリン)

(単位:億円)

	平成21年度		平成22年度	
	第3四半期 (実績)	通期(実績)	第3四半期 (実績)	通期(予想)※2
ネスプ/エスポー	350	489	368	483
グラン/ノイアツプ	121	170	111	151
コニール	168	233	153	213
アレロック	203	267	191	260
レグパラ	47	68	67	86
パタノール	63	74	60	75
トピナ	10	15	15	19

※1 実績・予想とも国内仕切価ベース(割戻金除く)の表示であります。

※2 平成22年度通期(予想)については8月16日公表値としております。